

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

— 1924 ~ 1939 年を中心として —

南 原 真

はじめに

戦前の三井物産の東南アジアにおける事業展開は、第二次世界大戦期の一時期を除いてはほとんど研究されてこなかった¹⁾。これにはさまざまな要因があるが、三井物産の海外事業において東南アジアの比重がそれほど高くなく、アジアでは中国、満州、朝鮮、台湾が貿易・投資の主体であったことがあげられる。

三井文庫編纂の三井事業史には三井物産の発展過程が各時期別に執筆されているが東南アジアへの言及は少なく、アジアでは中国、満州、朝鮮に多く紙面がさかれている²⁾。このように三井物産全体の取引から見て、東南アジアの比重は大きくはなかったが、これは同地域における物産の役割が過小であったとことを意味しない。それどころか東南アジアの物流の拠点であったシンガポール支店、ジャワ糖取引に代表される蘭領インド（インドネシア）の各店、米取引を主体としたバンコク、サイゴン、ラングーン店は、三井物産の重要商品取引の一角を担った。さらに日本と東南アジアの貿易における同社の役割は後述するように小さくはなく、むしろ重要な役割を果たしていた。

三井物産の商品取引では [麻島 2001]、[山口 1998]、1930 年代の三井物産の事業展開は、[春日 1982] [春日 1983] [春日 1984] があり、物産全体の取引から商品、東南アジアの各店の販売決済高等の数値を得ることは可能であるが、東南アジアの各店から見た商取引については、研究がほとんどなされていない。

本論文では 1924 ~ 1939 年のタイにおける三井物産の事業活動に焦点をあてる。この期間に限定するのは、この間に貿易が飛躍的に拡大したこと、第二次世界大戦に入ると政府の統制が行われ事業の活動内容が一部制限されるからである。

三井物産がタイのバンコクに出張員を設置したのは、1906 年であった。1927 年にはシンガポール支店バンコク出張員は出張所に昇格された。第九回（大正 15 年）支店長會議議事録（第一日）には、その申請願いがシンガポール支店長からの依頼事項として紹介されている。

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

其理由ハ近年々相當ノ成績ヲ擧げ來り、十四年上期ニハ三百六十萬圓、同下期三百五十萬圓、本年上期七百萬圓ノ成績ヲ示シ保險其他ノ臨時商賣アルモ、其他ハ米、麻袋、綿糸布、「チーク」材ノ如キ永續的ノ商賣ナルヲ以テ此際出張所ニ昇格ヲ請ヒタシ、是レガ爲メ別ニ經費ノ増加モナク、又税金其他公課ノ上ニ於テモ何等差違ナキ次第ニ付昇格ノ申請ヲ採用セラレタシ、ト云フニ在リ [物産 198/9:492]

1935年にはバンコク出張所は支店に昇格した。

三井物産全体の取引から見たタイの位置付けは低かったが、日タイ間の貿易における同社の役割は大きく、タイにおいての日本商社の先駆者であった。タイでは英国のアングロ・サイアム社 (The Anglo-Siam Corp., Ltd.)、ボルネオ社 (The Borneo Company)、デンマークのイースト・エシヤテイク社 (The East Asiatic Co., Ltd.) などの有力商社が長年タイの貿易に大きく関与していたが、三井物産もその一角を占めていくようになった。

本論文の目的は、第一に三井物産のバンコク店の業務内容を明らかにすることである。どのような主要商品を扱い、それが時代の変化とともにどのように変化したかを考察する。第二に三井物産の日タイ間貿易における役割とその重要性について検討する。民間同士の取引だけではなく、特に同社とタイ政府との取引に焦点をあてる。第三に主力商品であったタイ米取引と1930年代に重要性を増した機械取引を主に紹介したい。

本論文の主な資料は三井文庫を利用した。なかでも三井物産株式会社の各年度の事業報告書、同業務総誌、支店長会議議事録を主に利用している。その他日本の領事報告も活用した³⁾。

本題に入る前にまず両大戦期間を中心とする日本・タイ間の貿易動向を表1で見よう。両国間の貿易は第一次世界大戦を契機に大きく増加したが、1930年代初頭まで例外年度を除き日本側の貿易収支は大幅な赤字であった。1933年以降は日本の輸出の急激な増加により、貿易収支は日本側の大幅な黒字基調が続いた。日本のタイへの輸出額は第一次世界大戦直前に100万円を超え、1927年には1000万円台に、1935年以降は4000万円台で推移し、急増した。また、輸出と輸入を合計した貿易額で見ると、第一次世界大戦の戦時景気ブームの反動(1920-21年)、満州事変による日貨排斥や世界恐慌の影響を受けた年(1931-32年)を除けば、急激な貿易の伸びを記録した。

日本とタイ間の貿易動向の推移を検討する上で、香港やシンガポールの中継ぎ港の役割が重要である。シンガポール経由で欧米、蘭領インド、インドの商品が主にタイに輸入された。一方、香港からは主に中国や日本の商品がタイへ輸入された。タイの貿易統計において香港やシンガポール経由の取引で、原産地証明が明らかになったのは、1930/31年度の貿易統計以降であった⁴⁾。

表 1 日本-タイ貿易額

(単位：千円)

年度	輸出	輸入	貿易収支	貿易 (輸出 + 輸入)	貿易指数
1920	4201	3245	956	7446	100
1921	2652	11258	-8606	13910	186.8
1922	5599	22855	-17256	28454	382.1
1923	3843	12063	-8220	15906	213.6
1924	4181	18482	-14301	22663	304.3
1925	7820	23735	-15915	31555	423.8
1926	9271	14358	-5087	23629	317.3
1927	11146	22260	-11114	33406	448.6
1928	5764	19067	-13303	24831	333.5
1929	10633	20812	-10179	31445	422.3
1930	9477	18843	-9366	28320	380.3
1931	4722	6792	-2070	11514	154.6
1932	8581	11198	-2617	19779	265.6
1933	18124	12256	5868	30380	408
1934	28048	1540	26508	29588	397.4
1935	40258	5458	34800	45716	614
1936	43028	8757	34271	51785	695.5
1937	49382	13571	35811	62953	845.5
1938	39269	4951	34318	44220	593.9
1939	26024	5536	20488	31560	423.9

(注) 貿易収支、貿易、貿易指数は、出所の資料より著者作成。

貿易指数は 1920 年を 100 とする。

(出所) 日本統計協会、日本長期統計総覧 第 3 巻、1988 年、70-71 ページ。

次に日タイ間の主要貿易品目を 1920 年から 1939 年まで 5 年毎に表 2 で見てみよう。日本からタイへの輸出品は年度により変化はあるものの羽二重 (人造を含む)、縮緬 (人造を含む)、絹織物等の絹製品、綿布、ブランケット等の綿製品、靴、琺瑯鉄器、陶磁器、マッチ、帽子などの軽工業品や鉄製品が主であった。一方、タイからの輸入では一貫して米とチーク材が主要 2 大品目で全輸入額の 8 割から 9 割のシェアを占めており、なかでも米の比重の高さが際だっている。タイ米は日本では主に食糧としてではなく他の用途に利用されていた。南洋年鑑は、「我國に輸入する碎米は主として飴類の原料に使用し、一部は、焼酎、麥酒原料及織物糊用に供する。」と報告している。[南洋年鑑、1942:771]

東南アジア貿易に占める三井物産の比率

三井文庫の三井物産株式会社の各年度の事業報告書には、全国対物産輸出入品通関高国別二期比較表が掲載されている。この表には上期、下期別に日本の輸出入額と三井物産の輸出入額が対比で示され、アジア、欧州、アメリカ、豪州、アフリカの地域ならびに各国別の貿

表2 日本のタイへの輸出入主要貿易品
(単位：額は円，但し1920, 1925, 1930年は千円表示，シェアは%)

輸 出	1920				1925				1930			
	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア
1	生金巾シーチング	585	13.9	ブラケット(綿製)	621	7.9	其ノ他絹織物	581	6.1			
2	其他ノ紙(其他)	282	6.7	綾木綿(ドリル)	586	7.5	細綾綿布	502	5.3			
3	天竺布	219	5.2	晒金巾	574	7.3	縮緬	444	4.7			
4	晒金巾及晒シーチング	167	4	綿木綿	405	5.2	琥珀鐵器	405	4.3			
5	綾木綿	152	3.6	其他ノ学術器及同部分品	324	4.1	金巾綿布	374	3.9			
6	其他ノ雜品	122	2.9	其他ノ雜品	318	4.1	ブラケット(綿製)	366	3.9			
7	絶縁電線	117	2.8	生金巾	316	4	陶磁器	339	3.6			
8	ブラケット(綿製)	110	2.6	珙瑯鐵器	313	4	其ノ他綿布	291	3.1			
9	綿フランネル	103	2.5	羽二重	251	3.2	フェルト製帽子	253	2.7			
10	陶磁器	90	2.1	綿織絲	246	3.1	綿木綿布	214	2.3			
	上位10品目小計	1947	46.4	上位10品目小計	3954	50.6	上位10品目小計	3769	39.9			
	輸出合計額	4200	100	輸出合計額	7820	100	輸出合計額	9476	100			
輸 入	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア
1	米及粉	1550	47.8	米及粉	22442	94.6	碎米	12738	67.6			
2	チーキ木材	928	28.6	チーキ木材	737	3.1	精米	4470	23.7			
3	牛皮及水牛皮	256	7.9	花梨木, 鐵刀木, 紫檀類	268	1.1	チーキ木材	883	4.7			
4	綿黒檀	200	6.2	鉛(塊及錠)	157	0.7	其ノ他ノ黒檀, 花梨木,					
5	實綿	76	2.3	錫(塊及錠)	62	0.26	鐵刀木, 紫檀類	328	1.7			
	上位5品目小計	3010	92.8	上位5品目小計	23666	99.7	鐵(屑及故)	238	1.3			
	輸入合計額	3245	100	輸入合計額	23734	100	上位5品目小計	18657	99			
	輸入合計額	3245	100	輸入合計額	23734	100	輸入合計額	18843	100			

		1935			1939		
輸 出	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア	
1	ポプリン綿布	2793292	6.9	金巾(幅34吋以上)晒綿布	3359827	12.9	
2	鐵板(亜鉛鍍シタモノ)	2527506	6.3	ポプリン(其ノ他ノ綿布)	2636616	10.1	
3	金巾幅34吋以上晒綿布	2372760	5.9	ポプリン(晒綿布)	1294123	5	
4	縮緬及壁織(人造)	2078362	5.2	其ノ他(其ノ他ノ綿布)	1246919	4.8	
5	綿製ブラッケット	1934835	4.8	金巾(其ノ他)生地綿布 (無線ノモノ)	1030722	4	
6	更紗綿布	1353648	3.4	其他ノ金屬	1001749	3.8	
7	綿製單製サロン	1348656	3.4	綿製サロン(單製)	874004	3.4	
8	染金巾綿布	1203804	3	綿製ブラッケット	745326	2.9	
9	其ノ他綿布	1127578	2.8	縮緬及壁織(人琥珀織及 ポプリン)	735212	2.8	
10	羽二重(人造)	762387	1.9	更紗(其ノ他ノ綿布)	726562	2.8	
	上位10品目小計	17502828	43.5	上位10品目小計	13651060	52.5	
	輸出合計額	40258136	100	輸出合計額	26023875	100	
輸 入	品 目	額	シェア	品 目	額	シェア	
1	碎米	2985753	54.7	碎米	2518875	46.6	
2	チーキ	1294407	23.7	チーキ	1047625	19.4	
3	其ノ他ノ黒檀、花梨木、 鐵刀木、紫檀類	318752	5.8	精米	791800	14.6	
4	牛皮及水牛皮	258360	4.7	セルラック	281912	5.2	
5	インジアラツパー及ガタパ ーチャ	140464	2.6	牛皮及水牛皮	261195	4.8	
	上位5品目小計	4997736	91.6	上位5品目小計	4901407	90.7	
	輸入合計額	5457551	100	輸入合計額	5405964	100	

(出所) 大蔵省編纂、大日本外國貿易年表各年度版より作成。

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

易額が示されている。ここでアジアとして表記されているのは、関東州、満州、支那、香港、海峡殖民地、蘭領印度、仏領印度、英領印度、露領アジア、フィリピン、タイ、その他アジアである。

三井物産の東南アジアに占める貿易の割合を、上記資料から見てみよう。同資料では日本と同地域との貿易額と三井物産の取り扱い貿易額が掲示されており、同社のシェアを知ることができる。東南アジアの地域に関しては、海峡殖民地、蘭領印度（インドネシア）、仏領印度（フランス領インドシナ）、フィリピン、タイを対象地域とした。

1924年度から1930年代末までの三井物産の同地域への貿易に占める割合の推移を表3から見ると年度、国や地域、また輸出・輸入によって隔たりはあるものの、その割合は年々上昇する傾向にあった。1920年代では東南アジア全体の輸出と輸入を合計した貿易に占める同社の割合は9～11%台、1930年代前半では11%台～16%、1930年代後半では13%～17%の範囲で分布している。

ここで輸出と輸入に分けて見てみると、同期間の日本の輸出では三井物産のシェアは1桁台の4～9%台で推移しているのに対して輸入では同社は大きなシェアを保っていた。1932年度まではシェアは10%台であったが、1933年度以降19%～30%までの範囲で推移した。このことは1935年度には東南アジアからの輸入額の3割を三井物産が取り扱ったことを示している。また、1930年代の海峡殖民地、フランス領インドシナ、フィリピン、タイからの輸入に占める同社の割合は高い比重を示している。

貿易に占める同社の割合が高い国・地域はフランス領インドシナで、1929年度に25%以上となり1930年代は28～42%であった。次に海峡殖民地は1933年度までは7～17%台で推移していたが、1934年度から2割台、1936年度から3割台、1939年度には4割台とシェアを上昇させ貿易における同社の比重の高さを示している。1927～1939年度のフィリピンとタイでは例外年度はあるものの同社のシェアは10%台で推移し、前者では1932～34年度で20%台、後者では1933年度に18%の最高値を記録した。一方、蘭領印度（インドネシア）においては同期間4～9%の範囲で推移し他の地域と比較すると三井物産のシェアは低かった。

バンコク店の販売決済高の推移

三井文庫の三井物産株式会社の各年度の事業報告書には商品社内及社外販売決済高別並商売別表が掲載されている。その表には店名として本部の各部（生糸、石炭、砂糖、機械など）、国内店、海外店が縦に、横には輸出、輸入、内国売買、外国売買、合計、総計の項目が並び、さらに社内と社外に分類されて販売決済高が円で表示されている。

バンコク店の数字を転記して作成したものが表4である。事業報告書は上期と下期に分か

れて年に 2 回出されている。ここでは年度として長期間比較検討するために、上期と下期の両方の数字が取れる 1923 年度以降を主に対象とした。

バンコク店の全体の販売決済高は 1920 年代から 1930 年代にかけて急激に増大した。1920 年代前半は 400 ～ 500 万円台であったものが、1927 年度には 1600 万円台と最高値を記録した。1930 年代は前半は大きく落ち込み低迷するものの、後半から急速に回復し 1938 年度には 3000 万円を上回る額を記録した。1920 年代と 30 年代における取引内容の変化を表 4 から見てみよう。1920 年代前半では外国間売買の比重が高く次に日本からの輸入が続いていたが、後半から徐々に外国間売買の比重が低下してゆき、一方日本への輸出が漸増し、1929 年度では日本への輸出が外国間売買を抜き首位となった。1930 年代に入ると年度により差異はあるが日本からの輸入の割合が 34 年度から増加し、一方日本への輸出は 34 年度から大きく落ち込み停滞を続け、外国間売買は例外年度を除きおおむね 3 ～ 4 割台のシェアを占めた。

販売決済高は主に社内販売と社外販売に分類されているが、前者は三井物産内での取引（支店一本店、支店同士など）を意味しており、後者は三井物産以外との取引である。1920 年代から 1930 年代にかけて一貫して社外販売の比重が 6 割～ 8 割と高いが、社内販売の比重も 1929 年度と 1930 年度には 4 割に達している。日本からの輸入では社外販売の割合が圧倒的に大きく、一方日本への輸出は 1920 年代後半から 1933 年度までは社内・社外販売の両者が中心であったが、1934 年度以降は社内販売が主流となった。外国間売買では社内・社外の両者の取引が主体であるがおおむね後者の比重が高かった。

バンコク店の重要取扱商品

バンコク店はどのような商品を取り扱っていたのかを見てみよう。三井文庫の各年度の事業報告書には重要商品が掲載されており、その中でバンコク店が取り扱った商品の販売決済高をまとめたものが表 5 である。

1920 年代から 1930 年代にかけてバンコク店の取扱い商品は大きく変化した。まずこの期間を通して米、麻袋布が例外年度はあるものの一貫して主力商品であった。米はタイ米の輸出、麻袋布は米の梱包に利用され多くはインドから輸入された。1920 年代では米・麻袋布の 2 つの主力商品以外では、木材、機械、石炭、金物、砂糖が主要商品であった。砂糖は 1926 ～ 28 年度にかけて決済高が急増し、1927 ～ 28 年度は米、麻袋布に次ぐ第 3 位の商品になったことが注目される。砂糖は主に蘭領印度から輸入された。

1930 年代後半に入ると主要商品はゴム原料、綿織物、セメント、人絹絹糸・同織物が新たに加わり多様化した。原料品ではなく工業製品が増えた背景には、日本から大量の日本製品がタイに輸入されたことを物語っている。

バンコク店の業務内容については営業報告書で売上、販売決済高などの数値、業務総誌で

表3 日本本土との輸出入通関高 (東南アジア) に占める三井物産の割合 1924年度～1939年度
(単位: 円、但し1938,39年度は千円)

年 度	輸 出		輸 入		合 計	
	日本本土	三井物産	日本本土	三井物産	日本本土	三井物産
		シェア (%)		シェア (%)		シェア (%)
海峽植民地						
1924	22122621	1538088	30252861	2158360	52375482	3696448
1925	40235906	3470491	32246780	7075082	72482686	10545573
1926	44972479	6107549	45127064	9284436	90099543	15391985
1927	38084790	5109335	35360972	7425908	73445762	12535243
1928	24385629	3670568	40038206	6631465	64423835	10302033
1929	26640145	4885166	42062519	6140719	68702664	11025885
1930	27585158	5001801	30682216	3112760	58267374	8114561
1931	21719492	3388900	24208483	3719343	45927975	7108243
1932	20319073	3473169	23880260	4073524	44199333	7546693
1933	43206787	5749121	34883789	7301915	78090576	13051036
1934	62122104	8689947	62707813	21420243	124829917	30110190
1935	53639099	6915626	43517216	21447056	97156215	28362682
1936	51567092	7381017	38123766	25610477	89690858	32991494
1937	74147972	9090805	74606000	36672981	148753972	45763786
1938	25471	3877	49948	20798	75419	24675
1939	19422	2841	50696	28101	70118	30942
蘭領印度						
1924	57693147	886413	99116937	12215691	156810084	13102104
1925	88467001	1584688	105992036	11032938	194459037	12617626
1926	80118584	2348010	116275850	15616571	196394434	17964481
1927	85525692	2625161	111587430	12521933	197113122	15147094
1928	77520944	3181207	127592191	11705016	205113135	14886223
1929	89401252	3072528	91904090	5000229	181305342	8072757
1930	72709150	3933511	66751961	5127245	139461111	9060756
1931	69164315	3276575	54191013	4782723	123355328	8063848

1932	82084479	3787801	4.6	40103462	4522001	11.3	122187941	8309802	6.8
1933	153146825	6411958	4.2	57421510	10307439	18	210568335	16719397	7.9
1934	166559257	8847298	5.3	65655768	9355798	14.2	232215025	18203096	7.8
1935	148872088	6919363	4.6	76465932	11976444	15.7	225338020	18895807	8.4
1936	117154708	3584379	3.1	113137757	17629364	15.6	230292465	21213743	9.2
1937	204449478	5617341	2.7	156523275	22692308	14.5	361002753	28309649	7.8
1938	106493	3670	3.4	112525	8824	7.8	219018	12494	5.7
1939	123430	4497	3.6	84080	4540	5.4	207510	9037	4.4
仏領印度									
1924	2253307	280272	12.4	18003645	2186632	12.1	20256952	2466904	12.2
1925	3650829	307094	8.4	49681363	4837840	9.7	53332192	5144934	9.6
1926	6350566	1612076	25.4	26050508	3595599	13.8	32401074	5207675	16.1
1927	6073711	1301610	21.4	36577436	4083301	11.2	42651147	5384911	12.6
1928	5283514	901094	17.1	25567680	5019587	19.6	30851194	5920681	19.2
1929	2868043	401159	14	16186594	4688444	29	19054637	5089603	26.7
1930	2582642	341592	13.2	1187277	3795595	32	14459919	4137187	28.6
1931	1793395	423182	23.6	6444650	2892749	44.9	8238045	3315931	40.3
1932	1916269	388118	20.3	6056681	3005391	49.6	7972950	3393509	42.6
1933	3623588	427046	11.8	9149661	3946669	43.1	12773249	4373715	34.2
1934	3045832	565969	18.6	10391184	4366669	42	13437016	4932638	36.7
1935	4384661	564568	12.9	14783136	7585837	51.3	19167797	8150405	42.5
1936	4445199	745866	16.8	17485706	7751542	44.3	21930905	8497408	38.7
1937	5439620	1202020	22.1	27985105	10191308	36.4	33424725	11393328	34.1
1938	3272	956	29.2	19990	6866	34.3	23262	7822	33.6
1939	2417	893	36.9	24159	8096	33.5	26576	8989	33.8
フィリピン									
1924	22176167	2102048	9.5	17008331	3574559	21	39184498	5676607	14.5
1925	28941321	2222890	7.7	17139248	4255751	24.8	46080569	6478641	14.1
1926	29884501	2326777	7.8	18860181	4431490	23.5	48744682	6758267	13.9
1927	32164144	1628559	5.1	17820066	3846628	21.6	49984210	5475187	11

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

1928	30172858	1328348	4.4	16918757	4743434	28	47091615	6071782	12.9
1929	29345914	1639241	5.6	18296737	6131642	33.5	47642651	7770883	16.3
1930	29601784	1319321	4.5	12600318	4345725	34.5	42202102	5665046	13.4
1931	23340390	1389766	6	9141820	3298363	36.1	32482210	4688129	14.4
1932	16774215	2995422	17.9	9461292	3683560	38.9	26235507	6678982	25.5
1933	25202958	3910601	15.5	14006736	6097911	43.5	39209694	10008512	25.5
1934	35550370	3291865	9.3	18770697	8519198	45.4	54321067	11811063	21.7
1935	46722079	3290146	7	26259609	7929677	30.2	72971688	11219823	15.4
1936	45597472	3790189	8.3	31890664	8012811	25.1	77488136	11803000	15.2
1937	60990866	5481208	9	48486405	13268906	27.4	109477271	18750114	17.1
1938	41456	4089	9.9	34744	4952	14.3	76200	9041	11.9
1939	24540	1814	7.4	51005	12394	24.3	75545	14208	18.8
タイ									
1924	5295656	344998	6.5	18003046	1311887	7.3	23398702	1656885	7.1
1925	7682139	649203	8.5	25369906	1500329	5.9	33052045	2149532	6.5
1926	10976711	657620	6	16110103	1158825	7.2	27086814	1816445	6.7
1927	11289451	2703502	23.9	26347436	1872700	7.1	37636887	4576202	12.2
1928	7278031	2155506	29.6	19253411	2311623	12	26531442	4467129	16.8
1929	9323773	2380332	25.5	23010700	2796519	12.2	32334473	5176851	16
1930	9855208	1462132	14.8	22746085	3483295	15.3	32601293	4945427	15.2
1931	5985737	1197082	20	7544321	536696	7.1	13530058	1733778	12.8
1932	6475453	1097255	16.9	11969028	2186814	18.3	18444481	3284069	17.8
1933	17799616	2218930	12.5	13361222	3511787	26.3	31160838	5730717	18.4
1934	24944044	3304901	13.2	3303467	774885	23.5	28247511	4079786	14.4
1935	41246098	4971653	12.1	3855296	841855	21.8	45101394	5813508	12.9
1936	39446201	5777110	14.6	6815435	2357721	34.6	46261636	8134831	17.6
1937	52895461	7294923	13.8	14789932	4630065	31.3	67685393	11924988	17.6
1938	39210	4450	11.3	6712	1699	25.3	45922	6149	13.4
1939	28292	2456	8.7	4723	1602	33.9	33015	4058	12.3

表4 バンコク店商品社内及社外販売決済高商売別表
1923年度～1939年度

(単位：円)

年 度	日本からの輸入		日本への輸出		日本内での販売		外国間売買		合 計		総 計
	社内販売	社外販売	社内販売	社外販売	社内販売	社外販売	社内販売	社外販売	社内販売	社外販売	
1923	1743596	342804	342804				1282917	1305894	1625721	3049490	4675211
	37.3%	7.3%	7.3%				27.4%	27.9%	34.8%	65.2%	100%
1924	1297938	369122	369122				1643059	2292617	2012181	3590555	5602736
	23.2%	6.6%	6.6%				29.3%	40.9%	35.9%	64.1%	100%
1925	2162133	918082	918082				1039293	3476747	1957375	5638880	7596255
	28.5%	12.1%	12.1%				13.7%	45.8%	25.8%	74.2%	100%
1926	3402790	1400047	1400047	897471			1557381	4416889	2957428	8717150	11674578
	29.1%	12%	12%	7.7%			13.3%	37.8%	25.3%	74.7%	100%
1927	4292738	3158404	3158404	1704161			1007987	5891411	4166391	11888310	16054701
	26.7%	19.7%	19.7%	10.6%			6.3%	36.7%	26%	74%	100%
1928	2737451	2445469	2445469	900679			272159	3399450	2717628	7037580	9755208
	28.1%	25.1%	25.1%	9.2%			2.8%	34.8%	27.9%	72.1%	100%
1929	2957116	3862562	3862562	1525100			408172	812768	4273504	5294984	9568488
	30.9%	40.4%	40.4%	15.9%			4.3%	8.5%	44.7%	55.3%	100%
1930	2549252	4184137	4184137	2795754			774558	929277	4958695	6274283	11232978
	22.7%	37.2%	37.2%	24.9%			6.9%	8.3%	44.1%	55.9%	100%
1931	1639098	729807	729807	877087			857230	1169022	1587037	3685207	5272244
	31.1%	13.8%	13.8%	16.6%			16.3%	22.2%	30.1%	69.9%	100%
1932	3003135	3290868	3290868	2009608			406739	1762607	3697607	6775380	10472987
	28.7%	31.4%	31.4%	19.2%			3.9%	16.8%	35.3%	64.7%	100%

1933		4657536	3365431	1351354		583803	3773769	3949234	9782659	13731893
		33.9%	24.5%	9.8%		4.3%	27.5%	28.8%	71.2%	100%
1934		5757137	568033		7878	1486326	3764490	2062237	9521627	11583864
		49.7%	4.9%		0.1%	12.8%	32.5%	17.8%	82.2%	100%
1935	135	9330409	1607166			3266364	4454656	4873665	13785065	18658730
		50%	8.6%			17.5%	23.9%	26.1%	73.9%	100%
1936	8609	9916696	2661363	24759		1071110	5063495	3741082	15004950	18746032
		52.9%	14.2%	0.1%		5.7%	27.0%	20.0%	80.0%	100%
1937	11918	10180080	5321598	177610	25000	2355441	6822840	7713957	17180530	24894487
		40.9%	21.4%	0.7%	0.1%	9.5%	27.4%	31%	69%	100%
1938	1326	23515922	1668158	76700		2143013	2966888	3812497	26559510	30372007
		77.4%	5.5%	0.3%		7.1%	9.8%	12.6%	87.4%	100%
1939	2955	9254534	1455539			1514772	2636754	2973266	11891288	14864554
		62.3%	9.8%			10.2%	17.7%	20%	80%	100%

注：表3と同じ。金額の下限は各商売別の割合を示す。

大正12年度(1923年度)は大正11年11月から大正12年10月までである。

表の数値は各大正、昭和を西暦で表示した。

(出所) 三井文庫、三井物産各年度事業報告書より作成

表5 バンコク店販売決済高商品表
1924年度～1939年度

(単位：円)

年度	金物	砂糖	米	石炭	木材	麻袋布	機械
1924	15149		1307096	98547	166614	1161494	16712
上			418231	183231	136121	516287	32634
下			1725327	281778	302735	1677781	49346
計							
1925	84629		819095	295560	96117	1529386	16403
上			772603	217608	118712	1099043	315258
下	10503	304242	1591698	513168	214829	2628429	331661
計	95132	304242					
1926	46205	468365	1996639	206039	343071	1960609	320785
上			1298016	57486	253232	976646	860800
下	95074	535016	3294655	263525	596303	2937255	1181585
計	141279	1003381					
1927	330759	1344725	2808805	178134	261961	1615691	549010
上			2120199	162035	325228	1233949	632726
下	596431	1411743	4929004	340169	587189	2849640	1181736
計	927190	2756468					
1928	576939	803580	1793120	28892	525132	969517	300175
上			1053556		367993	401444	528448
下	231157	303912	2846676	28892	893125	1370961	828623
計	808096	1107492					
1929	453002		1809352	5272	444508	328824	34658
上			3054215	24225	457343	248729	355080
下	1025965		4863567	29497	901851	577553	389738
計	1478967						
1930	930228		4209150	91905	337821	308911	
上			2827488	30132	366374	52214	8327
下	680570		7036638	122037	704195	361125	8327
計	1610798						
1931	368104		932101	18365	257465	236108	21773
上			1200004	28261	199059	638746	136635
下	278493		2132105	46626	456524	874854	158408
計	646597						
1932	226858		3151707	453	175025	501629	67943
上			2294743	16546	151702	777884	9866
下	235294						

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

タイの経済事情や主要取扱商品に若干言及されているが、網羅的に各年度別に全体像を明らかにした報告書は三井文庫では公表されていない。また、バンコク店—日本の本店間に送付された文書や調査書なども三井文庫の三井物産の資料目次に掲載されていない。唯一公表された文書でバンコク店の業務内容について手がかりになるのは支店長会議議事録であろう。ただこの支店長会議はほとんど大正時代に開催され、昭和は10回目の昭和6年7月の1回だけであった。しかも同議事録は毎回バンコク店にふれていない。このような制約があるにもかかわらず、紹介したい。昭和6年の会議ではバンコク店の業務を以下のように記述している。

次ニ盤谷ノ事ナルガ、同地モ亦新嘉坡、馬來半島ト同様不況ニテ、昭和五年度ノ貿易總額ニ億七千萬銖ニテ、最高記録タル昭和二年度ノ四億七千萬銖ニ比スレバ約四割減ナリ、斯カル不況ノ対策トシテ、米商内ニ於テハ仲買ヲ通サズ市場ニ直面シ得ル米廊業務ノ擴張、名古屋ノ加藤商會トノ直接取引、瓜哇市場ヘノ進出、漢堡店トノ碎米引合、歐洲、南亞、中米、南米向商内ノ開拓調査ヲ爲シ、麻袋ノ商内モ久シク雌伏セシガ、最近滞貨減退ニ乗ジ積極的賣込ノ再開ニ依リ相當ノ賣約ヲ見ルニ至リタリ、雜貨商内ノ方針トシテハ本邦群小貿易業者トノ小競合ヲ避ケ、本邦品ノ歐洲品ニ對抗進出シ得ルモノヲ選擇シ、市場ノ獨占ヲ目標トシテ歐米品ニ蠶食スル様謀リツ、アルナリ、内地ノ製造家ト關係ヲ結び、相當ノ商品ヲ輸入セバ盤谷ノ市場ニ於テ獨占的地位ヲ占メ得ルモノモ可成有ルナラント考フ、例ヘバ宮崎珙瑯鐵器ノ一手委託、乾鐵線ノ一手販賣、製鐵所ノRound barノ委託荷、其他政府筋トノ關係ヲ密接ニシ、機械金物商品、兵器商内ノ進展ニモ努力スル方針ヲ取レリ [物産 198/10:108-9]

上記の報告から1931年頃から欧州品と対抗すべく商品を選択してバンコク市場での独占的地位を目指す、宮崎珙瑯鉄器など具体的な商品を想定してその準備をする、タイ政府との関係を密接にして兵器、機械金物など政府との取引を重視していることが注目される。

三井物産の米取引

ここで各主要商品の特徴を考察したい。バンコク店の主要取扱品目の最重要品は米である。タイ米は三井物産の全体の中でどのような位置付けにあったかを、まず考察しよう。表6は三井物産の社外品種別米販売決済高の推移を示している。年度により若干品種の変化があるが、物産は主に日本米、植民地米の朝鮮米と台湾米、シャム米、ラングーン米、サイゴン米を扱った。1920年代の米の品種別販売決済高は数量ベースと金額ベースで社内と社外の両方が併記されていたが、1930年代からは社外のみ数字となっており、ここでは両年代を比較したいので社外取引に絞って紹介する。1924年度から1939年度までの数字を見ていくと、最

低値は 1924 年度の数量ベース 168 万担（担＝約 60 キログラム）、価格ベース 1558 万円であった。数量ベースでの最高値は 1934 年度の 631 万担で最低値の 3.8 倍を記録した。1920 年代の数量ベースは 168～446 万担台であったが、1930 年代に入ると 433～631 万担台で推移した。金額ベースでは最高は 1939 年度の 8223 万円であった。1920 年代は 1558 万～3983 万円台で推移する一方、1932 年以降 39 年度までは 3755 万円～8223 万円と金額は大幅に増加した。

米の品種別販売決済高表は日本からの輸出、輸入、内国売買、外国売買の 4 分類で表示されている。1920 年代と 30 年代では取引分類が大きく変化しているので表 7 で見てみよう。1920 年代の特徴は輸入と内国売買の比率が高いこと、1930 年代の特徴は輸入が大きく減少して内国売買の比率がかなり高まったことである。1920 年代の輸出は 23 年度を除いて微々たるもので、一方外国売買は金額ベースで 5.7～34.6% の範囲で推移し変動の幅が激しかった。ただし、1924 年度と 1926～1927 年度は 2 桁以上の割合を占めた。1930 年代の輸入の減少は日本が昭和 9 年に外米輸入制限令を実施したことによる。さらに輸出は 1931～35 年度に集中してなされ、以後は微々たるものとなっている。一方外国売買は金額ベースで 6.3%～24.3% の範囲で推移した。国内売買はほとんど台湾米と朝鮮米が中心であった。一般的に日本の米作状況の豊作や凶作により、輸入額は大きく変動している。

ここで、タイ米、ラングーン米、サイゴン米の 3 品種米について検討する（表 8 を参照）。東南アジアの米輸出を代表する 3 品種を物産は扱っているが、概ね輸入と外国売買に取引が集中している点が特徴となっている。例外年度はあるものの、この 3 品種米は輸入と外国売買の主役であった。物産の米取引総額（社外販売決済高）における 1920 年代の 3 品種米の比重の高さを表 6 で見ると、34%～70% 台を占め際だっていた。1930 年代に入ると主役は台湾米と朝鮮米にとって変わるが、それでもその比重は 4.8%～49% 台で推移した。また、1920 年代においては 3 品種がバランスよく概ね取引されたが、1930 年代になるとタイ米の比重が大きくなったことも特徴的である。国際市場でこの 3 品種は競合したが、ラングーン米は主にインドや欧州、タイ米は香港、シンガポール経由で中国、蘭領インド、英領マラヤ、サイゴン米は中国、フランス、フランス植民地にそれぞれ輸出された。

バンコク店の米取引

次にバンコク店における米取引を考察したい。主力商品である米について、物産の事業報告書、業務総誌、支店長会議議事録には、タイ米に関して多くの報告がなされている。日本では国内が大豊作である場合、しばしば外米輸入制限令が公布され実施された。[春日 1984] は日本の政策に関して言及している。

表6 三井物産品種別米社外販売決済高
1924年度～1939年度

年 度	日本米		朝鮮米		台湾米		シャム(タイ)米		ラングーン米	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
	(単位：数量，担，金額，円)									
1924	1330	21502			344797	3484061	314869	2535990	706187	6678078
1925	333	7200	1250	19300	518981	6485034	193381	1841295	858178	8265002
1926			17899	248516	758490	9112345	557655	4237919	684409	5931186
1927			23845	307137	1576969	16996498	782821	5167985	965051	7906489
1928	1202	13013	75626	854912	2076426	20134644	687527	4096618	377409	2743413
1929	4668	47142	53332	589110	2096941	20919971	772831	5403937	605862	4531442
1930	29091	196715	46940	504435	1727105	16056351	1288535	7886247	1170260	6574123
1931	1003102	3556231	130953	919224	1819740	10932350	754595	2469855	415878	1493843
1932	823383	5373983	326859	2748580	2554301	17614815	1251289	5463563	1184173	6211489
1933	387913	2971153	284968	2437541	2883388	21564235	1133525	5146090	757521	4235104
1934	801682	4989821	412940	3760657	392230	31981710	698457	3170003	223241	1053029
1935	401156	3366905	234064	2752635	3639612	38102593	670350	3871392	314878	1692371
1936	1368	16965	173828	2140983	3650726	42413712	616582	4083648	77736	530781
1937	1700	21092	125104	1573718	3620557	40531085	737188	6152987	286675	2151720
1938	3690	57224	569147	7596431	3951614	47978065	407395	3886565	50015	375121
1939			467202	7024693	4645006	62861919	308044	2984892	106019	9032228

前表の続き

年 度	サイゴン米		東南アジア3品種		東南アジア3品種		総 計	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数量シェア	金額シェア	数 量	金 額
1924	207295	1696483	1228351	10910551	72.8%	70%	1687672	15586872
1925	602267	5648789	1669515	15887844	75.7%	70.4%	2204041	22581631
1926	1184878	9141031	2426942	19310136	75.3%	66.9%	3223893	28880228
1927	1019340	8214523	2767212	21288997	61.9%	53.4%	4467722	39837521
1928	611878	4377535	1676814	11217566	43.7%	34.7%	3836185	32282322
1929	297166	2151807	1675859	12087186	43.5%	35.7%	3848957	33810674
1930	331637	2003335	2790432	16463705	60.7%	49.5%	4596235	33241631
1931	205505	720646	1375978	4684344	31.8%	23.3%	4331904	20105063
1932	74912	514666	2510374	12189718	40.3%	32.1%	6225839	38009768
1933	194607	1108438	2085653	10489632	36.9%	27.9%	5653429	37557534
1934	232536	1241808	1154234	5464840	18.3%	11.8%	6311870	46349925
1935	310485	2189078	1295713	7752841	23.2%	14.9%	5573260	52012940
1936	187245	1209364	881563	5823793	18.4%	11.4%	4784792	51066401
1937	136182	954904	1160045	9259611	23.1%	17.7%	5021002	52440269
1938	22320	194981	479730	4456667	9.3%	7.2%	5180118	62006904
1939	7615	60179	421678	3948299	6.7%	4.8%	6298896	82237852

注：表3と同じ。

総計は表に掲載されている米6品種にその他の品種を加えた数字である。表の数値は各大正、昭和の上期と下期の数値を合計したもので、西暦で表示した。

1925年度の台湾米は台湾米、台湾土米、台湾内地種米をそれぞれ足した。また、暹羅米は暹羅米と暹羅碎米を足した。

1926年度の台湾米は台湾土米と台湾内地種米を足した。

1927年度から1933年度の台湾米は、台湾土米と暹羅米を足した。

(出所) 三井文庫、三井物産株式会社、各年度事業報告書（上期、下期）から著者作成。

表7 米社外販売済高並並商売別表
1924年度～1939年度

年 度	輸 出		輸 入		内 国 売 買		外 国 売 買		合 計	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
1924	1411 0.1%	22479 0.1%	806477 50.8%	7604166 48.8%	501932 29.7%	4885469 31.3%	377852 22.4%	3071758 19.7%	1687672 100.0%	15586872 100.0%
1925	333	7200	1122302 50.9%	10739776 47.6%	933028 42.3%	10541071 46.7%	148378 6.7%	1293584 5.7%	2204041 100.0%	22581631 100.0%
1926	674	5703	1025155 31.8%	8811783 30.5%	849866 26.4%	10064431 34.8%	1348198 41.8%	9998311 34.6%	3223893 100.0%	28880228 100.0%
1927	13431 0.3%	114772 0.3%	1786063 40%	13720984 34.4%	1673210 37.5%	17908029 45%	995018 22.3%	8093736 20.3%	4467722 100.0%	39837521 100.0%
1928	11717 0.3%	80443 0.2%	1205918 31.4%	8158607 25.3%	2201316 57.4%	21343062 66.1%	417234 10.9%	2700210 8.4%	3836185 100.0%	32282322 100.0%
1929	133	1004	1343976 34.9%	9816085 29%	2184956 56.8%	21798490 64.5%	319892 8.3%	2195095 6.5%	3848957 100.0%	33810674 100.0%
1930	69715 1.5%	425272 1.3%	1307776 28.5%	8119963 24.4%	1791977 39%	16620791 50%	1436767 31.3%	8075605 24.3%	4596235 100.0%	33241631 100.0%
1931	1002206 23.1%	3552274 17.7%	540035 12.5%	1735615 8.6%	1959648 45.2%	11893519 59.2%	830015 19.2%	2923655 14.5%	4331904 100.0%	20105063 100.0%
1932	81813 13.1%	5330547 14%	1264557 20.3%	5480121 14.4%	2902097 46.6%	20477021 53.9%	1241072 19.9%	6722079 17.7%	6225839 100.0%	38009768 100.0%
1933	381595 6.7%	2919948 7.8%	1349948 23.9%	6787793 18.1%	3222483 57%	24367319 64.9%	699403 12.4%	3482474 9.3%	5653429 100.0%	37557534 100.0%
1934	1128651 17.9%	6793061 14.7%	154169 2.4%	737513 1.6%	4364666 69.2%	35896648 77.4%	664384 10.5%	2922703 6.3%	6311870 100.0%	46349925 100.0%
1935	417978 7.5%	3583709 6.9%	7056 0.1%	38112 0.1%	3856677 69.2%	40636166 78.1%	1291549 23.2%	7754953 14.9%	5573260 100.0%	52012940 100.0%
1936	10322 0.2%	132226 0.3%	388538 8.1%	2831637 5.5%	3835699 80.2%	44566716 87.3%	550233 11.5%	3535822 6.9%	4784792 100.0%	51066401 100.0%
1937	8441 0.2%	115271 0.2%	551949 11%	4706475 9%	3738920 74.5%	42010624 80.1%	721692 14.4%	5607899 10.7%	5021002 100.0%	52440269 100.0%
1938	101941 2%	1413937 2.3%	244559 4.7%	2333478 3.8%	4421646 85.4%	54203403 87.4%	411972 8%	4056086 6.5%	5180118 100.0%	62006904 100.0%
1939	200062 3.2%	3078966 3.7%	191529 3%	1904825 2.3%	4879606 77.5%	66264171 80.6%	1027699 16.3%	10989890 13.4%	6298896 100.0%	82237852 100.0%

注：表3と同じ。年度の上段は数量、金額、下段はシェアを表す。
(出所) 三井倉庫、三井物産株式会社、各年度事業報告書より、著者作成。

一九三一年政府は米価政策（買上と放出）の強化を目的として米穀法を改正し、外国米輸入を許可制とした（当初その適用範囲はラングーン米と仏印米のみであった）。この措置が三井物産の外米輸入取扱減少の第一歩であった〔春日 1984:263〕

さらに 1934 年は外米輸入制限令が公布された。物産の昭和 8 年下半期業務総誌はタイ米と外米の取引に対する影響を以下のように伝えている。

暹羅米

南支及び海峽植民地方面並ニ印度本國向賣行順調之亦前年ニ比シ積出量増加シタルモ期末本邦政府ノ外米全部輸入禁止ニ遭ヒ日本向商内ノ杜絶トナリ、主トシテ日本向ニ販路ヲ有シタル碎米ハ産地暴落ノ憂目ヲ見ルニ至ル〔物産 2673/13:247〕

外米

内地ハ暹羅碎米賣込ミニ加藤、加商、柴田、三菱等アリ、共ニ産地直接引合ヲモ行ヒ活躍シタリ、期末内地輸入禁止状態トナリ、政府請願一部輸入ヲ行ヒ得タルモ直接引合ノモノニテ既約定積出不能ノモノアリ、問題未決ノ儘持越サレタル如シ。〔物産 2673/13:249〕

これらの日本の政策の影響を表から考察すると、タイ米はそれほどではないがラングーン米、サイゴン米の日本への輸入が大幅に減少している。なぜタイ米は他の 2 品種ほど影響を受けなかったのでしょうか。〔春日 1984〕はこれら 3 品種の販売先の差異からその要因を説明している。

三井物産ではラングーン米を日本、上海、スマトラ、バタビア、ドイツへ、サイゴン米を日本、上海、フランスへ、シャム米を日本、スラバヤへ販売していたが、ラングーン米、サイゴン米は日本向が多かったのに対し、シャム米は外国間貿易の比率が高かった。このため輸入米の規制によってラングーン米、サイゴン米の取扱高が大きな打撃を受けたのに対して、シャム米の打撃は比較的少なくて済んだのである。〔春日 1984:269〕

日本への輸出を絶たれた外米は、物産内で他国への輸出か外国間売買を模索する方法がとられたが、影響は深刻であった。三菱商事の社史『立業貿易録』はタイ碎米に根強い需要が日本にあり、麦酒会社、泡盛醸造家、友禅加工業者等が盛んに政府に輸入の陳情を行い、1935 年政府は数量、期限、用途を限定して碎米の輸入許可をしたことを伝えている⁵⁾。

昭和 10 年の業務総誌では、タイ米が上海向け輸出で好調、タイ碎米が日本政府の命令下で輸入されていることを伝えている⁶⁾。

表 8 米社外販売決済商品類別並商売別表
1924年度～1939年度

年 度	輸 出		輸 入		内国売買		外国売買		(単位：数量，担，金額，円)	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
タ イ 米										
1924			82505	651109	3006	23056	229358	1861825	314869	2535990
1925			112657	1100100	10000	111696	86413	209070	209070	1420866
1926		131	294502	2263429	10528	87448	252610	1886911	557655	4237919
1927			692039	4508556	8201	64024	82581	595405	782821	5167985
1928			578149	3448440	27765	175247	81613	472931	687527	4096618
1929			668541	4685664	3265	27157	101025	691116	772831	5403937
1930			1173290	7210289	4431	26594	110633	647764	1288535	7886247
1931		1600	521325	1651418	8059	37988	225211	780449	754595	2469855
1932			1125582	4805373	10627	44990	115080	613200	1251289	5463563
1933			1011976	4545644	15160	79943	106389	520503	1133525	5146090
1934	167933	1019609	154169	737513	18369	73744	357959	1339137	698457	3170003
1935			7056	38112			663294	3833280	670350	3871392
1936			388538	2831637	16934	89752	211110	1162259	616582	4083648
1937			538173	4596577			199015	1556410	737188	6152987
1938			244559	2333478			162836	1553027	407395	3886565
1939			191529	1904825			116515	1080067	308044	2984892
1924			552183	5312675	127528	1150505	26476	214898	706187	6678078
1925			652776	6242425	204167	2008488	1235	14089	858178	8265002
1926		4157	432203	3930324	49310	485617	202405	1511088	684409	5931186
1927	491	85540	600847	4897446	39424	322966	314818	2600537	965051	7906489
1928	9962		260222	1978198	13631	110200	103556	655015	377409	2743413
1929			511907	3868622	7651	63921	86304	598899	605862	4531442
1930			53289	359003			1116648	6212353	1170260	6574123
1931			1965	9100			413913	1484743	415878	1493843
1932			134439	645968	5040	25200	1044694	5540321	1184173	6211489
1933			300914	2014988	32649	234395	423958	1985721	757521	4235104
ラングーン米										

サイゴン米	1934	115901	574887		4970	36958	102370	441184	223241	1053029
	1935						314878	1692371	314878	1692371
	1936						77736	530781	77736	530781
	1937			13776	109898		272899	2041822	286675	2151720
	1938						50015	375121	50015	375121
	1939						106019	903228	106019	903228
	1924			66886	552314	20306	120103	980991	207295	1696483
	1925			344032	3232167	197505	60730	517178	602267	5648789
	1926	183	1415	287399	2484894	13639	883672	6524217	1184878	9141031
	1927	3469	29232	401389	3162191	23826	590656	4816888	1019340	8214523
	1928	11717	80443	361474	2670278	6666	232021	1571768	611878	4377535
	1929			145647	1096201	19232	132317	903413	297166	2151807
	1930	43621	257601	80441	543371		207575	1202363	331637	2003335
	1931			16745	75097		188760	645549	205505	720646
	1932						74912	514666	74912	514666
	1933			33732	204331		160875	904107	194607	1108438
	1934	50165	261698				182371	980110	232536	1241808
	1935						310485	2189078	310485	2189078
	1936						187245	1209364	187245	1209364
	1937						136182	954904	136182	954904
	1938						22320	194981	22320	194981
	1939						7615	60179	7615	60179

注：表3と同じ。原文の暹羅米をタイ米、蘭貢米をランゲン米、西貢米をサイゴン米に改めた。1925年度のタイ米は暹羅米と暹羅碎米を足した数値である。
 (出所) 三井文庫、三井物産株式会社、各年度事業報告書より著者作成。

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

米取引の問題点

バンコク店で米取引の問題点を次に見てみよう。タイの米輸出は長年香港、シンガポールの2箇所にまず集中して出荷され、そこから最終消費地へと運ばれた。物産がライバル業者である欧米の外国商会並びに現地の中国人精米業者・輸出業者に対抗するために、どのような問題をどのように解決しようとしたのであろうか。

まず初めに第7回（大正8年）支店長会議議事録ではシンガポール支店がタイ米について、次のように言及している。

暹羅ノ精米所ハ西貢方面ト異リ其規模甚タ小ニシテ、西貢方面ノー〇「キャパシチー」千噸ト云フカ如キモノアルニ比スレハ、盤谷ニテハ五十噸、六十噸ノモノ多ク、百噸及至二百噸ノ能力アルモノハ最大ノモノナル有様ニシテ、其事業ハ殆ト全部支那人ノ經營ニ係レリ、此ノ如ク精米所ノ數多ク從テ信用程度ハ何レモ不確實ナレトモ、其中ニ就キ比較的確實ナル者ヲ相手トスル次第ニテ、其買付ニ付テモ代金ハ後ニ支拂フトスルモ現物ノ引渡ヲ受ケラルヘキヤ否ヤ懸念アリ、又我々ノ店ニテハ倉庫其他何等ニ關スル設備ナキニ、彼地ノ習慣トシテ何日渡ト云フ米ノ約定ヲ爲シタル場合ニハ、其期日ヨリ例ヘハ一週内ニ引取ラサルヘカラス……日本ノ賣先ニ對シテハ三月渡ノモノハ彼地ニ於テハ一月渡又ハ二月渡ノ約定ニテ買取ラサルヘカラス、從テ若シ約定通り一月ニ引渡ヲ爲サル、トキハ之ヲ引取ラサルヘカラサル状態ナレハ、益々以テ倉庫ノ必要ヲ感スル [物産 198/7:137-8]

バンコク店は倉庫をもたないため不利であることや、納期の違いに関する慣習、精米所の規模の小ささ、信用度が高く納期が確実な精米所を選ぶ難しさを吐露している。

次に第9回（大正15年）支店長会議議事録にもとづいて、1926年上期の米取引状況から問題点を見てみよう。

暹羅米ノ輸出力ハ昨年度ニ於テハ百三十二萬噸ニシテ、本年度ハ旱魃ノ爲メ減収ノ見込ニシテ輸出餘力百萬噸ト豫想セラレ、大体ニ於テ本年年額百二十萬噸見當ノ輸出ト見ルヲ得ベシ、其仕向地ハ約半數ハ香港、廣東ニシテ（目下ノ所香港ヘハ仕向ケラレズ大部分廣東ナリ）次ハ新嘉坡三〇%、瓜哇、日本、歐洲之二次グ、而シテ日本向暹羅米ニ對シテハ其粒形長キト、値段高値ノ爲メ蘭貢、西貢米トノ競争ニ敵セザルモ、碎米ニ對スル特殊ノ需要ハ年々増加シツ、アリテ、昨年度ノ如キハ總額七萬噸ノ輸出アリタリ、内當員ノ暹羅米ノ取扱高ハ十五年上期ニ於テ一萬六千二百噸、二百五萬三千銖ニテ、最近一二期間ニ於テ取扱高モ激増ヲ見タルモ、尙ホ全輸出高ニ比スレハ一%ニ分ノ一ニ過ギズ、其理由ハ盤谷ノ一流精米所ハ香港、

廣東、新嘉坡ニ支店若クハ代理店ヲ有シ、直接自カラ商賣シテ輸出業者ノ仲介ヲ許サズ、日本向碎米ハ日本ニ於ケル買手ノ素質良好ナラザル爲メ、内地各店何レモ取扱ヲ好マズ、歐洲向ハ東亞社自カラ其船舶ヲ廻ハシ運賃ヲ無視シテ自由ニ活躍シ到底他ノ競争ヲ許サル等ノ理由ニ依ルモノニシテ、盤谷店トシテハ僅ニ瓜哇向引合ノ餘地ヲ有スルニ過ギザル状態ナルガ、幸ニシテ瓜哇三店ノ援助ニ依リ昨年下期ヨリ本年上期ニ掛ケ約一萬五千噸ノ賣約ヲ爲シ、瓜哇向引合ニ付テハ當社優勢ヲ示シ、一方前々期以來臺灣總督府ノ入札ニ對シ臺北店ノ援助ニ依リ大部分當社ノ手ニ収メツ、アルハ誠ニ欣幸トスル所ナリ。[物産 198/9:433-4]

タイ米は日本では碎米に需要が多いこと、物産のバンコク店の米輸出の問題としてライバルの現地精米業者は香港、シンガポール、広東に支店、代理店を持ち直接輸出しているため物産が仲介できないこと、ジャワ3店内の連携、台北店の援助など組織をあげて商談を展開していることが注目される。なお、同文書には加藤商店が日本向け碎米で重要な役割を果たしており、物産と同商店との直接引合の道が開けたことも報告されている。また、同業者として日本向けでは英国系のクーパー・ジョンストン、アングロ・サイアム、欧州向けでは、デンマークのイースト・エシアティクが最も優勢、ジャワ向けではクーパー・ジョンストン、イースト・エシアティク、物産が伯仲していることも伝えている。

タイ米の輸出は遠距離である欧州には欧州系商会、日本には物産を中心とする商社、近距離である香港・シンガポールへの中継ぎ港へはタイの中国人精米業者・輸出業者が担当した。

昭和6年の第10回支店長会議議事録においては、バンコク、シンガポール店における米取引の問題点が取り上げられている。

盤谷店ハ日本向以外玖馬揚成約累計五九〇噸ヲ算シ、採算切詰メ方法トシテハ貯賃ノ値下ゲ、苦力直營、米廊ノ經營、利用ヲ實行シツ、アル故歐米販賣店ノ協力ニ依リテ賣込進展ヲ計リ度シ

新嘉坡店自身ガ手近ニ仕入店ヲ控ヘナガラ米商賣ニ染手シ得ザル理由トシテハ、暹羅米商内ハ支那人大手筋ガ産地ニ精米所又ハ「エゼント」ヲ有シ常ニ産地ヨリノ委託荷ヲ受け居リ、而モ彼等ハ四十五日ノ「クレヂット」ヲ與ヘテ販賣セル有様故、當社ノ如キ現金賣方針ニテハ割込絶対不可能ナリ [物産 198/10:339]

船舶による運送コストの削減や倉庫の経営、苦力の直營を推し進めるなどしてある程度はライバル業者に対抗できても、それは根本的な問題解決にはならない。中国人商人による米取引のネットワークの強固さと彼ら独自の信用供与、委託荷の輸出方法並びに決済に対しては、物産の広範囲な本店、海外店の組織力を駆使しても、とうてい対抗できないのである。

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

バンコク店の機械取引

機械取引は1926年と27年度の2年間では販売決済高はそれぞれ100万円を超え、1936年度は207万円、1938年度は1919万円、1939年度は629万円と巨額の取引がなされた。これはタイ政府との取引によって、大口の注文が三井物産に発注されたことによる。1937年の日本の領事報告、海外経済事情は次のように伝えている⁷⁾。

殊に本年に入つての顯著なる出来事は、邦品が重工業品に迄及び来つた事は日本と暹羅貿易上の劃期的出来事と稱して可いであらう、即ち船艦及鐵道貨車等暹羅政府の入札購入品を日本當業者が請負ひ納品して居る。

昭和11年上半期の業務総誌はタイから兵器及軍用品で1888万円の巨額の注文があったこと、また機関車39万円、軌条79万円も売約がなされたことを、[シャム鐵道へノ機関車及軌條の賣約ハ注目ニ値ス]と報告している⁸⁾。[物産2673/17:218]また、同文書は前期にシャム行雜種機械437万円の大口受注があったことも伝えている。機械取引急増の要因として1936年に大型注文が殺到したことが大きい、他にタンカー、艦船など船舶の引き合いが同年や他年度にあったことがあげられる。

暹羅國タンカー成約D/W一、八五〇屯型一隻造船聯合會ニ於テ斡旋ノ結果函館造船所ニテ引受タル事ニナリタリ同國ヨリハ更ニ敷設艇一隻、砲艦一隻、潜水艦一隻、水雷艇一隻ノ引合アリ [物産2673/15:432]

昭和11年下期の事業報告書では暹羅政府から浅野造船製660馬力曳船1隻14万5000円の売約があったことを報告している。[物産615/43:34]

鐵道関連資材の売約として鉄橋桁8万8000円が1931年度上期[物産615/32:35]に、自転車及部分品4万円が1933年度下期[物産615/37:36]に記載されている。

兵器・軍用品は1930年代だけではなく1920年代から取引があり、物産とタイ政府・軍との結びつきを示している。兵器の取引、引き合いは歩兵銃、機關銃、彈藥、大砲など多岐にわたっている。第九回(大正15年)支店長會議議事録では兵器取引に関して、以下のように報告されている。

御承知ノ如ク盤谷出張員ハ泰平組合ノ代理店トシテ暹羅政府ニ兵器ノ賣込ヲ爲シ居リ、大正十三年二月同國政府ト契約ニ係ル歩兵銃並附屬品五萬挺ハ(金額三百五十萬圓)昨年六月五千挺、同十二月六千挺無事納入済ニシテ、残り三萬九千挺ニ對シテハ本年の中九千挺、明年四月一

萬五千挺、明後年四月一萬五千挺、納入ノ豫定ナルガ、既納品ニ付テハ品質モ良好ニテ暹羅政府モ満足シ居レリ、而シテ目下引合中ノモノハ平射砲五門見當、曲射砲五門見當、同上彈丸、輕機關銃百門見當、重機關銃五門見當、同上彈丸、南部式自働拳銃千挺見當ナルガ、何分ニモ財政整理ノ爲メ著シク豫算ヲ削減セラレ居ルヲ以テ意ノ如ク進捗セズ、又兵器以外ノ官應向商賣ニ付テハ陸軍省用「カーキ、ドリル」八十萬「ヤード」、天幕一萬枚、砲兵工廠金物類十萬銖見當、海軍省「ホワイト、ドリル」五萬乃至八萬「ヤード」等近々引合アル豫定ニシテ、多分五六月頃發表八月頃入札ノ運トナルベシ [物産 198/9:435-6]

[麻島 2001:204-5] の研究では物産各部支店の機械取引売約高が増大・減少した年度と内容を昭和 9 年下期から昭和 13 年下期まで一覽にしているが、バンコク支店の増加は昭和 10 年下期：雜種機械、車両及鉄道用品、昭和 11 年上期：兵器軍用品、軌条及付属品、機関車及部分品、昭和 12 年上期：工業用諸機械、兵器軍用品、減少は昭和 11 年下期：兵器軍用品、機関車及部分品、軌条及付属品、昭和 12 年下期：工業用諸機械、兵器軍用品、昭和 13 年上期：機関車及部分品、車両及鉄道用品となっている。

終わりに

本論文では三井物産の 1920～1930 年代のバンコク店の業務活動における米取引の重要性と 1930 年代から徐々に拡大した機械取引に焦点をあてた。物産の米取引ではタイ碎米が日本では需要が多く、1920 年代の米取引は輸入と内国売買が主であったが、1930 年代では外米輸入制限令などの実施により輸入が大幅に減少し内国売買が圧倒的な比重を占めるようになった。バンコク店の米取引の問題点として、タイの中国人精米業者・輸出業者による香港・シンガポールへの輸出には、物産が容易に対抗できない独自の商取引やネットワークがあった。機械取引に関しては物産とタイ政府の取引が重要であり、政府・軍から物産に発注された商品は鉄道資材、機関車・貨車、兵器、船艦、雜種機械など実に多岐にわたった。

今回の論文は三井文庫の物産の販売決済高の数値をもとに時系列的に集計したため、全体の概略の考察に重点を置いた。個別の商品やそれらに付随する問題点については今後の課題としたい。

今後の課題は 3 点ある。まず第一に 1930 年代に日本からタイへの輸出が激増した綿製品、雜貨、金物の物産の取引状況を明らかにしたい。第二に今回は言及していないが、貿易決済の仕組みや資金調達、バンコク店の利益など決算に関する調査が不可欠である。最後に商品の輸送と物産の海運事業との関連を研究したい。

戦前の三井物産のタイにおける事業展開について

注

- 1) 鈴木邦夫, 1995.「商社の南方進出」『南方共栄圏』疋田康行(編), 55-85 ページ所収, 東京:多賀出版。鈴木邦夫・花井俊介, 1995.「三井系企業の進出」『南方共栄圏』疋田康行(編), 373-435 ページ所収, 東京:多賀出版。
- 2) 三井文庫編, 1994. 「三井物産のコンツェルン化」『三井事業史』本編第三巻中, 32-81 ページ所収。東京:三井文庫, 「三井物産の業績回復と事業拡大」, 『三井事業史』本編第三巻中, 281-328 ページ所収, 東京:三井文庫, 「三井物産の急膨張と変容」, 『三井事業史』本編第三巻中, 503-572 ページ所収, 東京:三井文庫。
- 3) 日本の領事報告のタイ関係記事の目次については, [南原: 2001] を参照されたい。
- 4) 「シヤム市場に於ける日本商品の地位 (其一)」海外経済事情, 第5年三九号(昭和7年10月3日発行), 19 ページ。
- 5) 泡盛用(内一, 000 屯は海難全損)及友禪用は我社, 三井から直接需要者に売渡し, 其他の特殊用途向の大部分は他組員を通じ, 各地糊粉, 白玉粉, 製飴, 酒造等の同業組合に販売された。[立業貿易録 1958:299]
- 6) 西貢, 蘭貢ニ比シ暹羅米輸出余力増加シタルモ西貢米割安シヤム碎米ト共ニ上海南洋方面引合頻繁トナル [物産 2673/15:239] 政府命令シヤム碎米輸入ハ當社三菱各等分ニ取扱ヒ得タリ [物産 2673/16:236]
- 7) 「暹羅國貿易年報 (一九三五年度)」海外経済事情, 昭和12年第12號(昭和12年6月25日発行), 19 ページ。
- 8) 同文書の本期中特記事項には艦艇取引の記述が以下のようにある。
シヤム國トノ經濟的好修關係ハ益々内地ヘノ造船注文ヲ決定セシメ既ニ三月末現在同國註文艦艇ハ一三隻一 0,000 噸以上ニ及ビ [物産 2673/17:450]

引用文献

三井文庫資料

- 物産 615/32 昭和6年度上期 第43回事業報告書 三井物産株式会社
物産 615/36 昭和8年度上期 第47回事業報告書 三井物産株式会社
物産 615/37 昭和8年度下期 第48回事業報告書 三井物産株式会社
物産 615/43 昭和11年度下期 第54回事業報告書 三井物産株式会社
物産 2673/13 昭和8年下半年業務總誌 本店業務課
物産 2673/15 昭和10年上半年業務總誌 本店業務課
物産 2673/16 昭和10年下半年業務總誌 本店業務課
物産 2673/17 昭和11年上半年業務總誌 本店業務課
物産 198/7 第7回(大正8年)支店長會議議事録 三井物産株式会社 文書課
物産 198/9 第9回(大正15年)支店長會議議事録 三井物産株式会社 文書課
物産 198/10 第10回(昭和6年)支店長會議議事録 三井物産株式会社 文書課

麻島昭一, 2001『戦前期三井物産の機械取引』東京:日本経済評論社

外務省通商局, 海外経済事情

春日豊, 1984「1930年代における三井物産会社の展開過程(下) —商品取引と社外投資を中心に—」

三井文庫論叢 第 18 号, 141-408 ページ所収, 三井文庫
台湾総督官房外事課編纂 1942『南洋年鑑 第 3 回版』台北市: 南方資料館
三菱商事株式会社, 1958 『立業貿易録』東京

参 考 文 献

- 春日豊, 1982「1930年代における三井物産会社の展開過程(上)——商品取引と社外投資を中心に——」三井文庫論叢 第 16 号, 101-196 ページ所収, 三井文庫
春日豊, 1983「1930年代における三井物産会社の展開過程(中)——商品取引と社外投資を中心に——」三井文庫論叢 第 17 号, 57-137 ページ所収, 三井文庫
春日豊, 1984「1930年代における三井物産会社の展開過程(下)——商品取引と社外投資を中心に——」三井文庫論叢 第 18 号, 141-408 ページ所収, 三井文庫
南原真, 2001『「領事館報告」掲載タイ(暹羅)関係記事目録 明治 30 年から昭和 18 年迄』東京: 法政大学比較経済研究所, working paper No.102
正田康行(編), 1995『南方共栄圏』, 東京: 多賀出版。
三井文庫編, 1994『三井事業史』本編第三卷中, 東京: 三井文庫
山口和雄, 1998『近代日本の商品取引』, 東京: 東洋書林

(本論文は 2003 年度東京経済大学個人研究助成費研究課題番号 A03-15 による研究成果の一部である。)